

第85回麻布獣医学会 一般演題2

サイトケラチン亜型発現によるイヌの clear cell adnexal carcinoma の起源と分化に関する検索

安野 恭平¹, 佐久間 晶子¹, 西山 祥子¹, 代田 欣二^{1,2}

¹麻布大学・生物研, ²獣医病理

【はじめに】

Canine cutaneous clear cell adnexal carcinoma (CCAC) は2005年にSchulmanらによって提唱された分類であり, 非常に稀な悪性腫瘍である。CCACは特定の皮膚付属器への分化を示さず, 汗腺や毛包といった皮膚付属器への多方向性の分化を特徴とする。腫瘍細胞の中に免疫組織化学的にcytokeratin (CK) とvimentinを共発現する細胞が認められることがあることから腫瘍の起源は毛包幹細胞 (follicular stem cell) であると考えられている。本腫瘍については, これまで細かなCK亜型に対する免疫染色性を正常皮膚組織と比較検討した報告がなかったため, 分化方向とその由来についての疑義が生じ, 未だその診断名が定着していない。今回, CCACと診断された2例を用いて腫瘍細胞のCK亜型発現を詳細に検索し, 腫瘍の起源と分化に関する検索を行った。

【症 例】

症例Ⅰ-イヌ, ビション・フリーゼ, 雄, 5歳, 発生部位: 左頸部耳根部 (φ8 mm)

症例Ⅱ-イヌ, シーズー, 去勢雄, 14歳, 発生部位: 右口唇部 (φ8 mm)

【結 果】

病理組織学的検索により, 症例Ⅰでは毛乳頭様構造 (follicular papillary mesenchymal bodies) を形成がみられ, 症例Ⅱでは腺腔構造が認められた。腫瘍細胞は症例Ⅰ, ⅡともにPAS反応に陽性を示し, 免疫

組織化学的検索により pan-CK (clone AE1/AE3, CAM5.2), CK8, CK18に陽性を示し, CK20に陰性であった。症例Ⅱは pan-CK (clone KL1), CK7, CK14, CK15にも陽性を示したが, 症例Ⅰではいずれも陰性であった。いずれの症例でも, 蛍光二重染色によりCKとvimentinに共発現を示す腫瘍細胞が認められた。

【考 察】

病理組織学的検索では毛乳頭様構造 (症例Ⅰ), 腺腔構造 (症例Ⅱ) の形成がみられ, それぞれ毛包と汗腺への分化が示唆されるのみであったが, 免疫組織化学的検索により, 両症例は様々な皮膚付属器に特異的なマーカーに陽性を示した。免疫組織学的検索の結果, 症例Ⅰはアポクリン汗腺と外毛根鞘, 症例Ⅱはアポクリン汗腺, 表皮, 内毛根鞘, 外毛根鞘への分化が示唆された。このことから, CCACは多方向性に多様な皮膚付属器へ分化することが示され, 腫瘍細胞がCKとvimentinにdouble-positiveを示したことから, この腫瘍の由来は従来の報告通り, 毛包幹細胞と考えられた。

CCACは明細胞型汗腺癌 (clear cell hidradenocarcinoma) などの皮膚付属器腫瘍と混同され, その診断名は未だに定着していない。しかし, 今回の検索でみられたように, CCACは他の皮膚付属器腫瘍とは異なる特徴を示すことから, 区別して診断されるべきと考えられる。